

ISSN 0387-7280

# 国際日本文学研究集会会議録(第10回)

PROCEEDINGS OF THE 10th INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN

(1986)

国文学研究資料館

NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

PROCEEDINGS OF THE 10th INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN

1986

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,  
Tokyo, 142

# 第10回

## 目 次

あいさつ

小山 弘志

写真集

研究発表

8世紀東アジア政治状況の中における万葉集の成立 山口 博…………… 15

古事記と近親相姦 村上 史展…………… 24

禅文学の特殊性 — 道元の教えと良寛 石上・イアゴルニツァー 美智子 …… 35

日本文学における感情の表現

—— 謡曲『隅田川』の「クドキ」の小段 Leon Zolbrod…………… 48

没理想論争の今日的意味 大嶋 仁…………… 60

賢治童話におけるイノセンス 萩原 孝雄…………… 72

カール・フローレンツの日本文学史

—— 上代文学史を中心として 佐藤マサ子…………… 87

現代文学批評によって「文学史」を考えなおす John Whittier Treat …… 102

近代日本文学における西洋人のイメージ 鶴田 欣也…………… 112

『源氏物語』 —— 光源氏の栄華と予言 —— 金 鍾徳…………… 124

抜群の古典をよみがえらす加藤道夫作「なよたけ」 Kenneth L.Richard…………… 142

竹取物語とフランス中世の短編物語 小沢 正夫…………… 152

シンポジウム「日本文学史について」

加藤 周一 Donald Keene 小西 甚一 芳賀 徹…………… 165

公開講演

日本文学における「終わり」の感覚 上田 真…………… 217

「寫す」ということ

—— 近代文学の成立と小説論 —— Jean-Jacques Origas …… 234

記 録

日 程…………… 257

参加者名簿…………… 260

国際日本文学研究集会委員名簿…………… 267



## あいさつ

小山 弘志

今回の国際日本文学研究集会は第十回でございます。ひとつの区切りでございますので、いつもとはやや違った形にして、三日間催すことにいたしました。国文学研究資料館の設立は昭和47年で、すでに十年以上も経ちましたが、この国際集会は、当館がオープンした時、すなわち、ある程度の資料も蓄積され、新しく建物も出来て、閲覧利用を開始した昭和52年に第一回を催し、以来、年1回開催して参りました。回を重ねて第十回でございます。

おかげさまで年々充実して来ております。今回はとりわけ研究発表の御応募が多く、それで、十二人の方に発表をお願いするという、かなりハードなスケジュールを組むことになりました。今日の午後六つ、明日の午前、明後日の午前にそれぞれ三つ、計十二でございます。そのうちの三分の二が外国人の研究者、また外国で研究なさっている日本人の研究者の発表でございます。発表者がこのような方々に偏りすぎるのはこの会にふさわしいとはいえないのでありまして、日本で研究している方々にも発表していただいて、相互の研究の交流をはかってゆきたいと考えております。今回は8:4ですが、この位が限度で、一方が甚だしく多くならないことが望ましいと思います。今回、この会のために外国からお見えになった方もいらっしゃいます。この会が一人前になって来たことを示すひとつの証拠かと存じます。遠路はるばるおいで下さった方々に感謝する次第でございます。

第十回ということで、何か特別なことをと考へ、明日の午後に「日本文学史について」というシンポジウムを行うことにしました。加藤周一さん、ドナルド・キーンさん、小西甚一さん、いずれも比較的最近に日本文学史をお書きになった方、また現在書き続けていらっしゃる方で、またその日本文学史は日本語版のほかに英語版も刊行されております。どの国の文学史でもそうかもしれませんが、日本文学史をひとりで書くというのは容易なことではありません。それをなさった方、まもなくそれを完成なさろうとする方にお話しいただき、

司会を東京大学の芳賀徹さんをお願いする、このような企画を実現することができましたのは——— 実は明日の午後のことですが、まず実現するでありましょう——— 主催者としてまことに仕合せに存じます。四人の方々は、いずれも、必ずしもいつも日本、さらには東京におられるとは限らない方々なので、明日、これらの方々の御都合がつき、揃っておいでいただける運びになりましたことは、ありがたいことでございます。

明後日、土曜日の午後には、公開の形で、現在当館の客員教授であるスタンフォード大学の上田真教授、また、今回特にお願ひして、そして国際交流基金の援助を得ておいでいただくことになりましたフランス国立東洋言語文化研究所のジャン-ジャック・オリガス教授、このお二方による講演がございます。以上、十二の発表、シンポジウム、公開講演会、というプログラムを見ますと、名実ともに国際集會にふさわしいものとなって来たように思われます。この国際集會の全体の企画、また発表者の人選は、館内の者だけでなく館外の方も含めた委員会で行なっております。現在は池田重青山学院大学教授が委員長で、長谷川泉さん、清泉女子大学教授のアラン・ターニーさん、そしてキーンさん・芳賀さんも委員です。このような方々の御助力を得て進めて来たものでございます。今後も努めて参りたいと存じますので、御來會の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

さて私どもはこの集會の開催以外にいくつもの仕事をしております。この機会にその一二を御紹介いたします。一つは江戸時代末までの日本文学に関する文献類をマイクロフィルムで集めて保存するという仕事で、毎年ほぼ5000点を収集し、現在約8万点に達しております。これらを閲覧利用に供しておりますが、これだけの数になりますと、一つの書物の異本がいくつも——— それは各地の図書館に在るものですが——— 、フィルムとしてここに存在する、というようなことにもなりました、それをたやすく比較研究できる便利さも加わりました。このような点からも利用度は増して参りました。もとより所蔵者はじめ関係の方々の御協力によるものであります。

私どもはまた、書物そのものの収集保存もいたしております。現在はそれほ

どの量ではございませんが、着々と充実させてゆきたいと考えております。これを、一定の期間ごとにそれぞれテーマを定めて、順次展示しておりますが、ただいまは古今集を中心に西下経一先生旧蔵の本を二階で展覧しております。休憩の時間にも御覧いただきたいと存じます。

お手元にオンライン検索についての御案内を差し上げてあると存じます。さきほど申し上げた約8万点のマикроフィルム、また当館所蔵の和古書について、それぞれ目録を刊行しておりますが、その内容をオンラインで検索できるようにする計画で、明年4月から実施に移すべく準備をしております。マイクロフィルムの目録はすでに9冊刊行いたしました。たとえば源氏物語は今どれだけの本のフィルムがここにあるかということは、9冊を一々引いてみなければわからない。それがオンライン検索になりますと、一挙に出て参ります。そしてこれは、仙台でも福岡でも利用できることになります。おそらく、やがては外国からも御利用いただけるようになるのではないかと思います。ただ、検索した上で、その必要とするフィルム（資料）を利用したいということになりますと、あるいは近い将来、そのフィルムを直接オンラインでお届けできるようになるかもしれませんが、現在のところは従来のような形で申し込んでいただかねばなりません。

明年4月からサービスを開始するのは、今申しましたように当館所蔵のマикро資料と和古書のオンライン検索でございます。何分にも初めてのことで、当初はいろいろと不備な点もあるかと存じますが、逐次改善して参るつもりでございます。また、そのうちに、毎年刊行の国文学年鑑に掲載している研究論文目録のデータベースを整備して、そのオンライン検索も始めようと準備を重ねております。

以上、簡単に私どもの仕事の一端を御紹介いたしました。今日から三日間にわたって開かれるこの研究集会が、御出席の方々相互の活発な意見の交換によって充実したものになることを念じて、御挨拶を終ることにいたします。